

シンデレラプリンツェル

雅

雄太

晴樹

店長

母

抽象舞台を想定

照明は全体的に寒めの色を想定

雅 実はクリスマスイブとは、12月24日丸々を指す言葉ではありません。
クリスマスというイベントの由来であるキリスト教において、「イブ」とは「イブ
ニング」、つまり日没後を意味します。キリスト教の発祥の地においては12月の
日没時間は18時ですので、キリスト教にとって一日の始まりは日没後から始ま
ると言うことを踏まえれば、クリスマスイブとはつまり、クリスマスの前日の1
8時から23時59分となるのです。

雄太 ————で、それを聞かされた僕は、どうすればいいんですか？

雅 いやねー、ただの与太話よ。

今何時？

雄太 ええと、21時12分です

雅 3時間と12分ね

雄太 何がですか？

雅 さっきの話よ。1日が18時から始まるのなら今はちょうど3時間と12分目

雄太 ああ、そう言えば言っていましたね

雅 もう、つれないな

次の予約って何時だったっけ？

雄太 もう、さっき言ったばかりでしょ？

一回お客さん相手したら忘れちゃうわよ

雄太 はあ、21時30分です

雅 えー、インターバル短すぎない？

アヤカさんにも確認と———

雅

雄太 アヤカさ———

雅

アヤカさん！にも確認とりましたよ

雅 ……えー、そんなこと言ったっけ？

雄太 言いました

それじゃ、僕もう掃除終わったんで

雅 えー、もうちょっと話しましょうよーあと18分もあるんだからー

雄太 駄目です。お客さんと鉢合わせしたらどうするんですか

雅 ー…、一緒に楽しみましょ？

雄太 何言ってるんですか

雅 いいじゃない。3Pよ3P

雄太 馬鹿ですか

雅 あなたが上で私は下

雄太 お客さんはどうするんですか

雅 手拍子

雄太 どんな状況ですか

雅 というか、女の子があんまり下品なこと言うもんじゃありませんよ

雄太 こんな場所に働いている女に何言ってるの

雅 にしても最低限の慎みは必要ですよ

雄太 これぐらいいいじゃない

雅 駄目です。もう少し女の子らしくしてください

雄太 もう十分よ

雅 どこがですか。さっきと言ってることが違いますよ

雄太 女の子よ。おとぎ話のお姫様に憧れるような

雅 どんなお姫様ですか

雄太 白雪姫とかシンデレラよ

雅 子供ですね

雄太 女の「子」なんだから子供でいいの

雅 そう言うあなたは、一体どんなおとぎ話が好きなのよ

雄太 アヤカさん。話を引き延ばそうとしてるでしょ

雅 ……(バレちゃったみたいな顔)

雄太 はあ、もう行きますよ

雅 えー、質問に答えてよ

雄太 えーじゃないです

雅 ……

雄太 はあ、ラプンツェルですよ

雅 なによ、雄太も人のこと言えないじゃない

雄太 それでは、失礼します

雅 あ、ちよつと!

雄太、軽く一礼して出ていく

雅 なによあいつ。男のくせにラプンツェルが好きだなんて、女々しいやつ
……………髪もつと伸ばそうかしら

雅、自分の髪の毛を意味ありげに手櫛する

晴樹 アヤカさん、あと五分でお客さん到着します

26番の部屋に移動してください

雅 ……はあ

はーい！

雅、道具をもって部屋から出ていく。

場転、ここは店の裏にある喫煙所

雄太がやってきて、たばこを吸い始める

しばらくしてから晴樹がやってきて、雄太に軽く挨拶をしてたばこに火をつける

晴樹 どうだった？

雄太 どうもこうありませんよ

いつも通り。ぎりぎりまでお話ししてましようですって

晴樹 はー、お前も大変だね。あんなめんどくさい女に気に入られて

雄太 ほんとに、何で僕なんですかね

晴樹 そんなもん分かり切ってるだろ

雄太 え、どういうことですか？

晴樹 お前が一番若いからだよ二十歳だっけ？

雄太 ……なんすか、その理由

晴樹 いや、絶対そうだって！

雄太 違いますって

晴樹 お前、考えてみるって。一日にあんだけのおっさんたちを相手にしてんだぞ？

そりゃあ、若いやつが目の前にいたら気になるって

雄太 それなら晴樹さんでもいいじゃないですか。

晴樹 いやいや、こちらアラサーのおっさんよ？

それに比べてお前はさ、ピッチピチの大学生。しかも同い年と来てる。選ぶなら

お前だって

雄太 ……そういうもんなんですかね

晴樹 そういうもんだって。

……あーでもその気になんない様にしろよ？ 風俗嬢との恋なんて碌なものじゃね

えぞ？ 「恋は盲目」って言うだろ。二年間もやってたら、解るだろうけどよ。

雄太 解ってますよ。

晴樹 ん、よろしい。

晴樹、後ろの方を見る

晴樹 ……そう言えばこの部屋だな。

雄太 はい？

晴樹 今あいつがやってる部屋だよ

雄太 ああ

晴樹 ……おまえさ、あいつにやってもらったことある？

雄太 何をですか？

晴樹 解ってんだろ？ そう言うことだよ。

雄太 ……無いですよ

晴樹 あ、そう。もったいねえな。従業員割引とか結構お得だぞ？

雄太 別にいいですよ。そんなの。

晴樹 あいつ性格はあんなうざったいけどよ、プレイだけはスゲーんだぞ？

雄太 ……

晴樹 あの長い髪を、こう…一物にな？

かー、ありゃ、天国だった！

雄太 そうなんですか

晴樹 あーでも、流石に金が足りなくてな？

本番まではできなかったー！

雄太 ……

晴樹 ちよつと覗いてみねえ？

雄太 駄目です。音とか漏れたらどうするんですか

晴樹 ちえ、解るってるよ。

かー、俺はあの窓が憎い！ あの窓さえなければこんな生殺しの気持ちを持たずに済むのに！

雄太 ……

晴樹 ていうか、そろそろ店長に頼んでちゃんとした喫煙スペース作ってもらおうぜ

店の裏なんてこんな辛気臭い場所で吸ってらんねえよ

雄太 それは、そうですね

雄太、タバコの火を消す（携帯灰皿）

雄太 僕もうそろそろ戻ります。

晴樹さんもあんまり長居してちゃ店長に怒られちゃいますよ

晴樹 おーう

雄太 あ、そうだ。アヤカさんが仕事の時間ちゃんと把握していないみたいなんで気を付けといてください

晴樹 うーっす

晴樹、しばらくしてからタバコを消し、襟を正し佇まいを直す
場転、ここは休憩所

晴樹 お疲れ様

雅 お疲れ様

晴樹 調子どう？

雅 まあまあよ

晴樹 かーっ、つれないね。相変わらず。せっかく同僚なんだからもっと仲良くしてくれてもいいんじゃない？

雅 こんな仕事で同僚もクソもないでしょ

晴樹 その割には、雄太とはずいぶん仲良く話してんじゃねえか

雅 ……

晴樹 解ってると思うけど、マジになんなよ

雅 解ってるわよ……

晴樹 はあ……、本気であいつと付き合いたかったら今すぐこんな仕事やめろ

雅 いやよ

晴樹 は？

雅 ……はやく掃除行きなさいよ。

晴樹 ……あいよ。

あ、それと次の客は——

雅 23時10分からでしょ？ いちいち確認しなくても分かってるわよ

晴樹 やっぱりわざとかよ……

雅 あ、あと終わった後の部屋、窓開けてあるから後で閉めといて

晴樹 はいはい。

二人、退場

店長と雄太、入ってくる。

場転、ここは店の近くのファミレス

店長 すまないね。わざわざ来てもらって。

雄太 いえいえ、そんなに気にすることでは。

店長 それならよかった

雄太 あの、店長。話があるなら店長室で良かったのでは？

なぜわざわざファミレスに？

店長 あそこはいつ誰が入ってくるかわかったものじゃないから

雄太 聞かれたくない話ってことですか？

店長 誰彼構わずって話ではないよ

雄太 それならここは人が多すぎる気がするんですが

店長 あんまり人が少ないところに行くと周りから怪しまれてしまうからね。人を隠すなら人の中につけてやつき。

雄太 なるほど

店長 せっかくファミレスに来たんだ。何か食べながら話そう。

雄太 はい

雄太、メニューを見る

店長 雄太君はこういう店に来るのは初めてかい？

雄太 はい。家がこういうところに来るような感じじゃなかったの

店長 ・アヤカは、やけに君のことを気に入ってるようじゃないか

雄太 一時の気の迷いみたいなものですよ

店長 そんなものが一年も続くわけ無いと思うけどね

雄太 ただの偶然です

店長 まあ、彼女と君学年で言ったら同じだからね。何かしら感じることもあるんだろうさ。

雄太 ……

店長 君に一つ頼みがある

雄太 頼み？

店長 彼女はうちの看板嬢だと言うことは、もちろん君も知ってるだろ？

雄太 はい

店長 君と同じ時期に入って、その時から人気だったから、大体二年くらいずっと働き

詰めということになる

雄太 ですね

店長 統計的に風俗嬢は2年から3年で仕事を辞める。そのころにはこの仕事が嫌になつてしまうんだ。

アヤカは今年で2年目だ。

雄太 つまり、何が言いたいんですか？

店長 彼女を息抜きに連れ出してほしいんだ

雄太 息抜き？

店長 彼女、僕が言ってもなかなか休暇を取らないんだよ

雄太 そんな、何で僕なんですか？ 他のお友達とかでいいでしょう

店長 いないんだよ

雄太 え？

店長 だからいないんだよ。友達。

雄太 大学に行っていないから少ないとは思ってましたけど、それでも少しくらいはいるでしょ。うちの他のヒメとか

店長 いないって。私がそういう風にしてる

雄太 なんでそんなことを…

店長 彼女がそうしてくれと言っただよ

雄太 「仕事に集中したい」だそうだ

店長 なんですか、それ

雄太 知らないよ、そんなこと。

店長 こちらとしても、働いてくれるなら別に構わないからね。喜んで引き受けたさなら別に休暇もいらんじやないんですか？

店長 短期間でやめると思ってたから、最初はそのつもりだったんだけどね。

雄太 2年間ともなればそうはいかないんだよ。急に嫌になって辞められるのも困るし。

店長 それで、気に入られてる僕にと…

雄太 その通り。僕や晴樹だと変にぎくしゃくしちゃうからね。

店長 頼まれてくれるかい？

雄太 …僕しかいないのなら

店長 よかった。断られたらどうしようかと思ったよ

雄太 (何食べるか) 決まったかい？

店長 あ、はい。

店長は何を

店長 ああ、私はいいや

店長、出て行こうとする

店長 それじゃあ

雄太 え、店長昼食は

店長 この後用事があるから、適当に済ませておくよ

雄太 これで好きな物でも食べなさい

店長 こんなに…。多すぎますよ

雄太 お釣りは、アヤカとの休暇に使いなさい

雄太 あ、それと

店長 はい

雄太 くれぐれも、本気になるんじゃないよ？

店の商品に手を出したら許さないから

じゃあ

店長、店から出ていく

雄太 あっ…

雄太、何やら深く考えている
雅、入ってくる

ここは店の休憩所

雅 あら、珍しいじゃない。あなたが休憩室にいるなんて

雄太 ああ、そうですね

雅 なに？ 私に会いたくなっただの？

雄太 そんなんじゃないよ

雅 なによ、つれないわね

雄太 ……

雅 ……

雄太 ……あの。アヤカさん

雅 雅

雄太 アヤカさ——

雅 雅

雄太 ……はあ、雅さん

雅 あら、珍しい。

どうしたの？

雄太 遊園地って興味あります？

雅 遊園地？ なによ急に。別に嫌いじゃないわよ。

雄太 なるほど

雅 ……なによあんた。今日ちよつと様子がおかしいわよ？

雄太 いや、あの…、知り合いに遊園地の無料券とファストパス貰ったんですよ

雅 あら、良かったじゃない

雄太 それで、その、良ければどつかタイミングが合うときにも、一緒に行きませんか？

雅 ……は？

雄太 あの、だから遊園地一緒に行きませんか？

雅 どうしたの急に？ どういう風の吹き回し？

雄太 あの、あんまり友人で遊園地が好きな人がいなくて…

どうします？ いやなら別の――

雅 もちろん行くわよ！

雄太 ……はは、それは良かった

雅 えー、やだ。どうしよう。なんかすっごいワクワクしてきた。

私遊園地言ったことないのよね

雄太 そうなんですわ

雅 ほら、私片親じゃない？ 行く余裕なんてなかったのよ。

雄太 ……ああ、なるほど

雅 なに乗ろうかしら、やっぱりメリーゴーランドとかコーヒークップかしら

晴樹 アヤカさんあと5分でお客さん到着します

雅 あ、はい

今度一回ちゃんと話しましょ！ちゃんとエスコートしてくれなきゃ嫌よ

雄太 解りましたよ

雅、休憩室から出ていく

雄太 ……はあ

雄太、続いて部屋から出ていく

雅、別の出掛け口から入ってくる

場転、ここは雅の家

雅 ただいまー

雅、テレビの電源をつけ、鞆から携帯を出して遊園地について検索している

母、叫びながら入ってくる

母 うるさい！ もっと静かにできないの！！

雅 あ、ごめんなさいお母さん…

雅、音量を下げようとする

母 下げなくていいわよ！

寝る気なくした

ごめんなさい

母 あんた、何見てんの

雅　　これは、ちょっと・・・

母、雅の携帯を取り上げて中を見る

あ！・・・

母　何あんた、遊園地行くの？

ははっ、デート？

・・・

母　なに？ほんとにデートなの？

・・・

母　あなたには無理よ、やめときなさい

相手は誰？

・・・

・・・

母　仕事先の人よ

母　仕事先？

ははっ、あははははははは！

母　仕事先の人？あんたそれ本気にしちゃってんの！？

・・・

母　馬鹿じゃないの！？客とデートに行くなんて何考えてんのよ！

・・・じゃない

は？

母　客じゃない！

母　客じゃないってんなら誰だっっていうのよ

母　店の、ボーイよ・・・

母　ぶっ、もつと馬鹿じゃない！

母　自分とこのヒメをデートに誘う客なんて碌な奴じゃないわよ！

母　いい？そいつは、ただ、あんたとただでセックスがしたいだけ。

母　ただのただマン目的よ。あんたのことちょっとロマンチックな雰囲気になればやらせてくれる、サセコだと思ってるのよ

母　雄太はそんな人じゃない！

母　雄太って言うのね

母　やめときな、あんた。男なんてあんたが20より年取ったら見向きもなくなるんだから

・・・

母　私みたいになりたくないでしょ？

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

母　雅

雅

見てくれただけ誠実そうな男にあほみたいに惚れ込んで、20超えた途端に捨てられて、そいつの子に孕んで――

雅 解ってるよ!!!

何回も聞いた…

母 いい？ あんたが今ちやほやされているのは、あんたがまだ20にもなっていないから。後半年もしたら誰も見向きもしなくなるわよ。

雅 ……

雅、嫌になって部屋から出て行こうとする

母 あんた、今月分の給料は？

雅、無言で給料袋を机に叩きつける

母 ありがとう。

暗転

舞台上、雄太がタバコを吸っている

ここは喫煙所

晴樹、入ってくる。

晴樹 おまえ！聞いたぞ！

雄太 ……はあ

晴樹 お前、すげえな！あんなめんどくさい女とデートとか！

雄太 デートじゃありません。休暇の連れ出しです

店長言ってたでしょ

晴樹 だからそれがデートみたいなもんだろがよ

雄太 はあ…

晴樹 で、どこに行くの？

雄太 遊園地です

晴樹 遊園地、またガキっぼいところに行くんだな

雄太 いいじゃないですか。僕もアヤカさんも行ったことないんですから

あ、そうなの

雄太 アヤカさんは僕が行ったことないのは知りませんがね

晴樹 大丈夫なのか？

雄太 何がですか

晴樹 そんなんでエスコートできんのかってことだよ

雄太 別に要らないでしょエスコートなんて

晴樹 あいつの休日のために遊園地行くんだろ？変にぐだついたら、余計ストレスになるぞ

雄太 それはそうかもしれませんが…

晴樹 絶対そうだって。

それにほら、あいつ意外と少女趣味だろ？王子様みたいな感じしつかりエスコ

ト出来たら、あいつも大満足だって

はあ、わかりました。ちよつとくらい予習とききます

あ、あと一応言っとくけど——

雄太 大丈夫ですよ。本気にはなりません

晴樹 お前もお前でなんかロマンチストな所があるからな

囚われのお姫様を助けるために、身を挺して——みたいなことがあるかもしれないし。ラプンツェルみたいに

雄太 ……誰から聞いたんですか？

晴樹 ああ、こないだ店長から。

お前店長とそんなこと話してんの？

雄太 ここに入る時にちょっとだけ話したんですよ

それと、ラプンツェルの王子様は別に王女様を助けてません

え？ そうだったっけ？

晴樹 晴樹さんが見たのって、デイズニー版の方でしょ？

僕が好きなのは童話版なんです

へー童話の方だと助けてないんだ

雄太 むしろ逆ですよ、魔女に会うなって言われてへこんで塔から飛び降りるんです。

晴樹 うわー…

雄太 ラプンツェルを孕ませるといっておまけ付きで

晴樹 うわー…

雄太 その後にラプンツェルは塔を追い出されます。孕んだ罰で

晴樹 うわー…

なにして、全然ロマンチックじゃないじゃん

雄太 ついでに言うと、王子は飛び降りた衝撃で2年間盲目になります

晴樹 もういいって。お前そんなが好きなの？

雄太 面白いじゃないですか。リアルで。

晴樹 童話にリアルを求めんなよ。ていうかりアルか？ これ

雄太 いいじゃないですか。別に

晴樹 …

そう言えば、アヤカの方はシンデレラが好きって言ってたな

雄太 …らしいですね

晴樹 お前は、シンデレラどう思う？

雄太 (唾を吐く)

晴樹 おいっ

雄太 子供だましですよあんなの。

夜中の12時になったら解ける魔法も、なのになぜか残り続けるガラスの靴も、

国中の女性にそれを履かせて回る王子も。

大体、何で一国の王子が、どこの誰とも知らない女に容姿だけで一目ぼれして結

婚相手にしようと思うんですか。国内の派閥争いとかがどうするんですか。

晴樹 そう言うしがらみがあるのに選んだから、ロマンチックなんだろう？

雄太 ただの脳内お花畑ですよ。

晴樹 めちゃくちゃいうなおまえ。

雄太 うちの親がそんな感じだったんですよ

晴樹 明家の女と貧乏な男。駆け落ち。金なし。理想だ。

晴樹 ああ、だからお前ここで働いてんのか。

雄太 学費もないんですよ

晴樹 はあ、お前も大変だったんだな

雄太 ……はい

晴樹 ……俺も昔はな――

雄太 あ、僕もう休憩終わりです

失礼します

晴樹 ちよつとは聞けよ！

雄太、はける

晴樹、タバコを消して追いかける

窓が閉まる音

晴樹 ……あ？

晴樹、ハケる

雄太登場。

場転、ここは遊園地の中のベンチ

雄太、ベンチに腰掛ける

雅、登場。手には遊園地のグッズを持っている

雅 ごめーん。まった？

雄太 全然、別に大丈夫ですよ

雅 いやあ、ずるいよね。入ってすぐのところこんなのあるなんて

そりゃ買っちゃうわよ

雄太 そりゃあ、凄い魅力的でしたけど。なんで先にぬいぐるみとか買っちゃうんです

か…

雅 ああ、でもどうしよ。荷物持ちっぱなしだったら鎌になるわよね

雄太 それならここからちよつと行って曲がったところにロッカーがあるからそこに入
れましょう

雅 え、ほんと？ よかったー。

雄太 後でアトラクションに行くときについでに置いていきましよう

雅 うん

ていうか、良く知ってるわね。

雄太 さっきその看板に書いてありましたよ

雅 えー、気づかなかった

雄太 最初、どこに行きますか？

雅 えーと、あれとかは？

雄太 あーあれは、オープン当初から根強い人気を誇り続ける「ドラゴンコースター」ですね。その名の通り、ドラゴンそのものが走行コースになっています。

コースの全長は1697mと、絶叫アトラクションにおいて最長。上昇下降、左右のひねりなど、ジェットコースターの定番が詰まっているコースですね。

雅 …あーじゃああつちは？

雄太 あつちは、このシンボルでもある「大観覧車セレクション」です。国内最大級の大きさを誇ります。直径は102m・高さは108mあり。1周するのにかかる時間は5分。広大な子の遊園地が一望できる景色は思い出に残るはずですよ。ゴンドラは他、360°。シースルーになっている特別なゴンドラもあります。床まで透明になっているので、地面までの高さをはっきり感じられる、スリル満点のゴンドラですよ。

雅 じゃあ、あれは？

雄太 メリーゴーランドです

雅 …丸暗記してるでしょ？

雄太 ……してないですよ

雅 じゃ、あれは？

雄太 「スネイクリバー」ですね。円形のライドに乗って激流を下るウォーターアトラクションです。水の流れによってライドの動きが変わるので、何度乗っても新たなおもしろさがあります。水しぶきはあるものの、そこまで激しく濡れるわけではないので、ウォーターアトラクションの中でも挑戦しやすいです。家族でも学生グループでも楽しめそうですね

雅 あれは？

雄太 「スクライド」です、ここでもっとも有名な絶叫アトラクションです。

吊り下げ式のジェットコースターになっており、足が床につかない分、より浮遊感が味わえます。コースは全長約800m、約3分間の走行です。

3回の宙返りに加え、スクリュー回転が4回もある、とっても刺激的なアトラクションになっていますよ

雅 あれは？

雄太 メリーゴーランドです。

雅 ……回ります

雅 やっぱ丸暗記してるじゃないしてないですよ

雄太 してるから、あんまり目玉じゃないメリーゴーランドの説明がしょぼいんですよ！

雄太 ……シンデレラがモチーフです

雅 見たらわかるわよ

かぼちやの馬車走ってんのよ？

雄太 …よく気付きましたね

雅 もうちよつと加減を考えなさいよ。バレバレだったわよ

雄太 そうですか…

雅 なにあんた、そんなに予習してきたの？

雄太 …アヤカさんにとって初めての遊園地なのでどうせだったらと

雅 どこに気合入れてんのよ。

それと、雅。

雄太 ですから――

雅 今日は休みなの、仕事のこと思いたさせないでよ

雄太 …分かりました

雅 ああ、勿論苗字も嫌よ？

雄太 …雅さん

雅 よろしい

雄太 …それで、結局どこに行きますか？

雅 うーん、じゃあメリーゴーラウンドで

雄太 え、もっと他の、ここにしかないのとか乗らないんですか？

雅 ああいう、感じのメリーゴーラウンドなら他の遊園地にもありますよ？ きっと

他の遊園地にもあるようなものがないの。人生初遊園地なんだから、まずは定番

から始めなくちゃ。ほら、いくわよ。

雄太 あ、はい

雅、メリーゴーラウンドの方へ向かう

雄太、あとを追いかけてようとするが止まる

場転。回想

ここは店長の部屋

店長、登場

店長 君がこの店で今日から働く、雄太くん？

雄太 はい。

店長 年は、18だったかな

雄太 はい、この間高校を卒業しました

店長 18歳なら、まだこういうところに来たことなんか無いだろ？

雄太 …はい、そうですね。

店長　なんで働きたいと思ったの？

雄太　それは・・・学費のためです

店長　なんだ。君んちあまり裕福じゃないのか？

雄太　・・・はい

店長　・・・君、好きな童話は？

雄太　・・・は？

店長　いや別に、なんとなく気になっただけだ

それに、ほら、店の名前が名前だし

答えて？

雄太　・・・ラプンツェルです

店長　どっちの？

雄太　グリム童話の方の

店長　・・・ははは、君、面白いね

まあいいや、よろしく頼むよ

雄太　・・・はい。よろしく願います

店長　ああ、そうだ。ちょうど一か月前に入った女の子がいてね、君と同学年みたいだし、どうせだったら紹介しとこう

晴樹ー！

晴樹　はーい。何でしょう

店長　アヤカを呼んできてくれないかー？

晴樹　わかりましたー

雅、部屋に入ってくる

店長　彼女がアヤカだ。君と同じでこの前卒業したばかりだから年も近いし、仲良くしてやってくれ

雅　よろしく願います

雄太　雄太って言います。よろしく願います

店長　アヤカは中々の人気でな。このままだと看板娘になる日もそう遠くないぞ

雄太　・・・そうなんですか。

店長ー！アヤカのお客さん。あと10分です！

晴樹　分かったよー

店長　こうやって予約がひっきりなしだ

ほら、行っておいで

雅　はい・・・

雅、部屋から出ていく

雄太 あのこと…

店長 ん？ どうした？

雄太 彼女は、あんな齡で何でこんな仕事を？

店長 ……あんまり詮索するもんじゃないよ

ここで働く理由なんて、碌なもんじゃないんだから

雄太 ……はい。

店長 ただ、一つだけ言うなら君と似たようなもんさ家庭の事情

雄太 ……

店長 ……じゃあ、私は先に出るね

この後晴樹が来て色々説明すると思うから

雄太 ……はい

雄太 僕はこの時、なんて思ったっけ。

初めてあの店、「オトギ」で彼女に出会ったとき、

風俗で働く、僕と同じ年の「アヤカ」の傍さに、何を感じたんだっけ。

場転

メリーゴーラウンドの音

雄太、メリーゴーラウンドに乗ってる雅を見ている

雄太 メリーゴーラウンド。それも僕の嫌いなシンデレラの。

雅さんは、シンデレラが好きって言ってたな。

雅さんも、待ってるのかな

雅 おーい雄太ー！

雄太、笑顔を作って雅に手を振る

雅 あんたもあとで乗りなさいよー！

雄太 僕はいいですよー！

雅 楽しいのにー！

雄太 後でジェットコースター乗りましょー！

雅 わかったー！

雄太

おんなじ所をぐるぐるぐるぐる。

雅さんがシンデレラなら、絶対に舞踏会にはたどり着けないな
メリーゴーラウンドはあんまり好きになれないな

暗転

明転

雄太と雅が向かい合わせで座っている

ここは、観覧車

雅 疲れた……

雄太 そりゃあんなに連続で乗ったらそうなりますよ

雅 なんで雄太は平気なのよ

雄太 ちゃんと休憩を挟んでたからですよ

雅 ずる……

雄太 ずるくないです

あ、見てください。もう結構な高さですよ

雅 見る気が起きない

雄太 何しに観覧車に乗ったんですか

雅 ……

雄太 ……

雅 ……

雄太 ……外見ないんだったら、一つお話大丈夫ですか？

ん？ なによ。

雄太 雅さんは、どうしてこの仕事をやってるんですか

雅 絶対こんなところで話じゃないわね

雄太 今ぐらいしかこんな話できないので

雅 ……どうしてって、別に好きでやるもんじゃないでしょ、こんな仕事

雄太 じゃあ、なんで

雅 お金のためよ、お金。

ほら、私片親だから稼がないと大変なの。生活費

雄太 それなら、あんなに仕事を入れなくてもいいんじゃないですか？

生活費を稼ぐにしては多すぎる気がします

雅 ……

雄太 教えてください

雅 お母さん、二十歳になった途端逃げられたんだって

雄太 ……え？

雅 ……それで、その後私がいることが解って、いろいろ大変だったって

雄太 ……働けるようになったらすぐ働けて。

20を超えたらお前の魅力はなくなるから、それまでに体を売って稼いどけて

雄太 そんなの、わざわざ従わなくて——

雅 無理よ。小さい時からずーつと言われてきたのよ。いまさらそれ以外をする気はしないわ

雄太 ……

雅 一生を80年だとしてその長さを24時間で例えると、20歳は6時間目くらい。1日は18時から始まるから、20歳でちょうど夜の0時

凄いと思わない？ 私、シンデレラみたいね

雄太 そんなの――

雅 ほら見て。丁度つてっぺん

雄太 雅さ――

雅 してたのよ？ 私。雄太、店長に言われて私を誘ったんでしょ？

雄太 ――っ

雅 ふふっ、窓が開いてないかくらい確認しないと駄目よ

でもありがとね。楽しかった

雄太 ……

雅 私ね今が人生のピークでいいと思ってるの

雄太 ……

雅 好きよ雄太。

雅、雄太に抱き着く。

雄太 この後僕と雅さんは、一緒にホテルに行った。

雅さんは泣いてるような、笑ってるような顔で僕の頬を撫でていた

涙が僕の眼の中に落ちた。

避妊は、しなかった。

暗転

ここは休憩所

雄太、タバコを吸っている。

晴樹、入ってくる。

晴樹 うーっす。

雄太 お疲れ様です

晴樹 お前聞いたか？

雄太 何がですか

晴樹 アヤカ、半年でやめるって

雄太 ああ、知ってますよ

晴樹 なに、お前、驚かないの？

雄太 なんとなくそうだろうなーって思っていました

晴樹 なんだよ。詰まんねーの

雄太 ……

晴樹 追っかけねえの？

雄太 追っかけますよ。僕もあと半年でやめますし

晴樹 は！？ごほっごほっ！

雄太 マジ！？

雄太 マジですよ

晴樹 お前、どうしたの

雄太 いや、別に、こないだの遊園地があった後でアヤカさんが辞めるって言ってる時

点で僕も首になるでしょうから、それならこっちから辞めてしまおうかなと

晴樹 学費は？

雄太 まあ、どうにかしますよ

晴樹 …おまえ、アヤカとなんかあっただろ

雄太 別に。

晴樹 別になんか…

雄太 追いかけるんだろ？なんかあったに決まってるじゃねえか

雄太 ですね

晴樹 お前、なんかの王子様みたいだな

雄太 どこがですか

晴樹 そうやって何も考えずに女に一直線な所がだよ

雄太 そうですかね。もともとこんな感じだんだんだと思いますよ

ただ、2年間ずっと隠してただけです

晴樹 なにお前！そんな前から好きだったの！？

雄太 はい

晴樹 はーじゃあ、あれか。お前2年間も惚れっぱなしだったってわけ

雄太 気付いたのは最近ですけどね

晴樹 はーめっちゃくちゃだよ

雄太 ま、ということ。あと半年間よろしくお願いします

晴樹 ……ああ、よろしく。

あー、寂しいね。後輩がいなくなるってのは

たまには遊びに来いよ？

雄太 今から女の人追っかけるのに、ここに遊びに来ちゃダメでしょ

晴樹 それもそっか。

晴樹、タバコの火を消して出ていく

雄太 王子様か…

場転

雅が仰向けになった雄太の上のっている

ここは遊園地の近くのラブホテル。

雄太 僕はシンデレラの王子様にはなれませんが

でも、靴を落として裸足になった雅さんの横で、靴を脱いで歩くことはできます。

寒いねって、痛いねって言いながら一緒に歩くことはできません

雅 ありがとうございます

暗転

雄太 どうして雅さんは、僕のことを好きになってくれたんですか？

雅 あなたただけなもの。あの店の中で私を買わなかったのは

〈終わり〉

